

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1－1

令和8年1月28日

協議会名:姫路市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金・車両減価償却費等国庫補助金

申請番号	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
1	神姫バス株式会社	「姫路駅前～青山西～龍野」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施	目標37,288人/日に対し、実績37,932人/日であった。	・沿線の通学需要や病院への通院を考慮したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進 ・姫路市・市内店舗とのサイクル&バスライドの取組みを通じた利用促進
2	神姫バス株式会社	「姫路駅前～林田・山崎インター～山崎」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要や病院への通院を考慮したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進 ・姫路市・市内店舗とのサイクル&バスライドの取組みを通じた利用促進
3	神姫バス株式会社	「姫路駅前～奥猫尾～社」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・加西市との福祉施策(優待乗車施策)の継続 ・沿線自治体との連携によるバス時刻表の作成・配布 ・加東市との運賃施策(市内上限運賃制度)の周知による利用促進 ・西脇市・加東市内の地域内フィーダー交通との連携による需要創出
4	神姫バス株式会社	「姫路駅前～病院・江飼団地～福崎駅前」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の病院への通院を考慮したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・姫路市と福崎町の連携コミュニティバス「ふくひめ号」とのダイヤ接続による連携 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進
5	神姫バス株式会社	「姫路駅前～横関～山崎」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進 ・沿線店舗とのサイクル&バスライドの取組みを通じた利用促進
6	神姫バス株式会社	「姫路駅前～南山田～北条営業所」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・沿線自治体との連携によるバス時刻表の作成・配布 ・加西市との福祉施策(優待乗車施策)の継続 ・接続するコミュニティバスとの自社ICカード(NicoPa)による乗車券共通化による需要喚起の継続 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-1

令和8年1月28日

協議会名:姫路市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金・車両減価償却費等国庫補助金

申請番号	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
7	神姫バス株式会社	「姫路駅前～南大貫～北条営業所」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施	目標37,288人/日に対し、実績37,932人/日であった。	・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・沿線自治体との連携によるバス時刻表の作成・配布 ・加西市との福祉施策(優待乗車施策)の継続 ・接続するコミュニティバスとの自社ICカード(NicoPa)による乗車券共通化による需要喚起の継続 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進
8	神姫バス株式会社	「姫路駅前～杉之内～前之庄」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・姫路市コミュニティバス「コミュニティバス雪彦」とのダイヤ接続による連携 ・姫路市・市内の店舗とのサイクル&バスライドの取組みを通じた利用促進 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進
13	神姫バス株式会社	「姫路駅前～塩田～前之庄」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・姫路市コミュニティバス「コミュニティバス雪彦」とのダイヤ接続による連携 ・姫路市・市内の店舗とのサイクル&バスライドの取組みを通じた利用促進 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進
20	神姫バス株式会社	「姫路駅前～横関～荒木」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・並走路線の再編による需要の集約検討 ・沿線の学校へのモビリティ・マネジメントによる利用促進 ・姫路市・市内の店舗とのサイクル&バスライドの取組みを通じた利用促進
22	神姫バス株式会社	「姫路駅前～法華山一乗寺～社」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線の通学需要に対応したダイヤ設定による利用取り込みの継続 ・バスロケーションシステムやICカード利用データを用いた、需要に応じた運行計画の見直しの検討 ・加西市との福祉施策(優待乗車施策)の継続 ・沿線自治体との連携によるバス時刻表の作成・配布 ・加東市との運賃施策(市内上限運賃制度)の周知による利用促進 ・西脇市・加東市内の地域内フィーダー交通との連携による需要創出
3	株式会社ウイング神姫	「山崎～ダイセル」の運行	- 前回事業評価未実施	A	計画どおり事業を適切に実施		・沿線のJR網干駅・播磨新宮駅及び山崎バスターミナルにおけるJR及びバス接続向上の為に、JRダイヤ改正に合せた時刻改正の実施 ・姫新線利用促進活性化同盟会との連携による乗継ガイド及びたつの市おでかけ時刻表を活用した利用促進

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月28日

協議会名：	姫路市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金・車両減価償却費等国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	「姫路市総合交通計画(令和3年7月策定)」において、「にぎわいあふれる都心と魅力ある地域の交流連携を支える交通体系の構築」を基本理念に掲げ、①地域ニーズに対応した、安心・快適に移動できる公共交通の整備、②多様な交通を選択でき、人とまちをつなぐ交通環境の充実、③持続可能な公共交通を地域や多分野で支える仕組みの形成の3点を基本方針として施策推進を図っている。 <事業実施の目的・必要性> 公共交通は、自動車運転免許を持たない学生や高齢者等の日常的な移動手段として重要な役割を担っている。一方で、近年は、利用者数の減少やライフスタイルの変化等により、交通事業者の経営は厳しい状況となっている。 本市のバス交通は姫路駅を起終点として運行しており、特に日常的な移動手段として重要な役割を担っている。本市では単独の民間事業者が運行していることから、事業者間の路線の重複や競合はみられないが、民間事業者の独立採算を基本として運営しており、不採算路線の減便や路線の縮小等によるサービス低下が危惧されている。 このため、地域公共交通確保維持改善事業により支援することで、本市のバス路線を確保・維持していく必要がある。

姫路市地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

「姫路市総合交通計画（令和3年7月策定）」において、「にぎわいあふれる都心と魅力ある地域の交流連携を支える交通体系の構築」を基本理念に掲げ、①地域ニーズに対応した、安心・快適に移動できる公共交通の整備、②多様な交通を選択でき、人とまちをつなぐ交通環境の充実、③持続可能な公共交通を地域や多分野で支える仕組みの形成の3点を基本方針として施策推進を図っている。

具体的な施策の一つとして、バス路線網の維持に関する取り組みを進めることとしている。バス路線網の維持については、利用者ニーズに沿ったサービスの拡充に努めるとともに、地域住民への積極的な利用促進を進め、特に、地域間移動や交通結節点に接続する路線については、その必要性を確認した上で、国庫補助等を活用しながら、適切な行政支援を行っていく。

○基本理念

- ・にぎわいあふれる都心と魅力ある地域の交流連携を支える交通体系の構築

○基本方針

- ・地域ニーズに対応した、安心・快適に移動できる公共交通の整備
- ・多様な交通を選択でき、人とまちをつなぐ交通環境の充実
- ・持続可能な公共交通を地域や多分野で支える仕組みの形成

公共交通ネットワークのイメージ図

※別添で添付

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○事業の目標値

1日当たりの一般乗合バスの利用者数：37,288人以上

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

「姫路市総合交通計画（令和3年7月策定）」において、1つの基本理念と3つの基本方針を定め、公共交通施策を推進している。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域間幹線系統確保維持費 国庫補助	事業者	R6.10～R7.9	幹	通勤・通学、通院、買物等の住民の日常生活を支える身近な公共交通機関として重要な役割を果たしている生活交通バスの維持確保を図るため、路線バスに対して支援

【種別】幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業、継策：運送継続計画策定事業、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
車両減価償却費等 補助	事業者	R6.10～R7.9	乗合バス事業者の負担の軽減や老朽した車両の更新による安全確保及び利用者利便を図る観点から、バリアフリーに対応した車両（ノンステップバス）の導入について支援（神姫バス（株）10台・（株）ウイング神姫1台）

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
バス停留所整備	姫路市・事業者	R5～	バス停留所の上屋・ベンチの改善等の待合空間整備を行うもの
サイクル&バスライド用の駐輪場の整備	姫路市・事業者	H25～	バス停へ自転車等でアクセスできるように、利用者の多いバス停において駐輪場整備を進めるもの
モビリティ・マネジメントの推進	姫路市・事業者	各年度	マイカーから徒歩、自転車、公共交通機関等への自発的な転換を促進する施策の推進を行うもの
系統や便数、運行ダイヤの見直し	事業者	各年度	バスの運行系統・便数・ダイヤの見直しを行い、効率的なバス路線の運行を図るもの

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
バス停留所整備	上屋の改修等、バスの待合空間の改善に努めた。	事業目標の達成
サイクル&バスライド用の駐輪場の整備	市内店舗等の駐輪場でのサイクル&バスライドの展開を行った。	事業目標の達成
モビリティ・マネジメントの推進	「ひめじの鉄道・バスガイド」の市内転入者への配布や、出前講座の実施、バスの乗り方教室の実施等のモビリティ・マネジメントを実施した。	事業目標の達成
系統や便数、運行ダイヤの見直し	4月ダイヤの改正を実施した。	事業目標の達成

4. 具体的取組に対する評価

国・県・市の適切な役割分担のもと、路線バスの運行経費・車両購入にかかる経費を支援した。

また、自治体・事業者の適切な役割分担のもと、利用促進事業として、バス停留所の整備やサイクル&バスライドに取り組み、適切なモビリティ・マネジメント等も実施した。

これらの市と事業者と連携した総合的な取組により、身近な移動手段の確保・維持につながり目標値を上回った。

目標値	実績	備考
37,288 人/日	37,932 人/日	神姫バス（株） 37,889 人/日 （株）ウイング神姫 43 人/日

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
様々な利用促進活動により、令和7年度については、1日当たりの一般乗合バスの利用者数の目標値を上回った。 しかし、自動車交通の普及や、沿線人口減少、郊外部での高齢化のため、路線バスの利用者確保は依然として課題となっている。 また、民間事業者による独立採算を基本として運営しているため、不採算路線の減便や路線の縮小等によるサービスの低下も危惧されるところである。	利用者ニーズに沿ったサービスの拡充に努めるとともに、地域住民への積極的な利用促進に努める。 また、効率的な運行が求められるため、交通事業者と協力しながらの継続的なバス路線の維持に努めていく。

姫路市地域公共交通会議（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
	令和7年度 事業評価初回実施	

2. アピールポイント、特に工夫した点など

・バスの利用者の声を踏まえたダイヤ改正を実施するなど、利用者の意見を運行計画の見直しに反映している。

【事例】神姫バス株式会社

「姫路駅前～杉之内～前之庄」「姫路駅前～塩田～前之庄」線において発車時刻を見直し、コミュニティバス雪彦との乗り継ぎ時間を確保することで利便性を向上させた。

【事例】株式会社ウイング神姫

お客様の声は、乗務員に届くことが多くあり、ダイヤ変更時は、乗務員にアンケート形式で聞き取りをし、ダイヤ変更に反映させている。

・バス事業者と連携をとりつつ、モビリティ・マネジメントやサイクル&バスライド、待合環境空間の改善等を積極的に進め、利用促進を図っている。

公共交通ネットワークのイメージ図

将来ネットワーク図

